

山崎史恵<sup>1)</sup>、中島郁子<sup>1)</sup>、佐藤由菜<sup>2)</sup>、塚原美織<sup>2)</sup>  
 1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科  
 2) 新潟医療福祉大学大学院 健康スポーツ学分野

【背景・目的】新潟医療福祉大学には現在9つの強化指定クラブが存在し、トップアスリートの育成が行われている。競技活動を目的に入学してくる学生の数は今後も増えていくと予想されるが、その一方で、競技活動レベルが上がるほど競技ストレスやプレッシャーも増大し、競技不振、負傷の頻発、人間関係の軋轢、競技離脱など様々な問題に直面することになる。そのため、トップアスリートの育成を担う体育系大学・学部、あるいはトップアスリートを支援する公的機関等では、アスリートの充実した競技生活と課題克服を支援するためのシステムが求められている。

本報告では、平成27年7月に開設されたばかりのスポーツカウンセリングルーム(スポーツカウンセリング研究センター)の利用状況を集計し、来談件数、来談者の傾向、及び来談の主訴等を概観する。こうした資料の積み重ねにより、学生アスリートの直面する問題を把握し、適切な支援につなげていくことが重要であると考えている。

【方法】相談受付は週3~4日(放課後等)で、来談時には担当者がインテーク面接を行い、来談の主訴や問題の経緯等を把握している。スタッフ間で共有する主訴分類に従って記録を残し、平成27年度に実施した面接を集計の対象資料とした。なお、スポーツカウンセリングルームの開設は平成27年度半ばからであるが、前年度から教員が継続中の相談ケースについても今回の集計作業に含めた。

相談を受ける担当スタッフは現在4名(教員2名、大学院生2名)であり、大学院生のケース担当時にはスーパーバイズ及びケースカンファレンスの実施により、教員からの指導を継続した。また相談面接はJ棟の302相談室にて1回50分、原則週1回の継続相談としたが、学生の試合遠征や夏季休業に伴って適宜、面接の間隔は調整した。

集計は来談者数、のべ面接回数、及び主訴分類について行い、主訴分類は1名のアスリートにつき複数の項目が該当する形式であった。また競技種目については具体的な来談者の特定を避けるため、個人種目とチーム種目の2つに分けて集計を進めた。個人種目には陸上競技部及び水泳部、チーム種目には男女バスケットボール部、男女サッカー部、野球部、女子バレーボール部、ダンス部を含めた。

【結果と考察】

平成27年度に実施した相談ケースは来談件数として16件であった(表1)。他の体育系大学に設置されているアスリートの相談施設では年間の来談件数は概ね20件前後であることから、開設1年目である本施設の利用としては比較的多いものだと考えられる。また今回来談した学生ア

科が11名、その他の学部・学科に所属する者が2名であった。

来談学生の内訳をみると(図1)、個人種目では男女に偏りなく来談し、部員割合としてチーム種目の選手より来談が多い傾向にあると推察される。他方、チーム種目の来談者4名は全て女子アスリートであり、男性は含まれなかった。

(人)	
学生 (学部・大学院)	13 91
OB・OG	1 5
指導者	随時対応
保護者	2 8

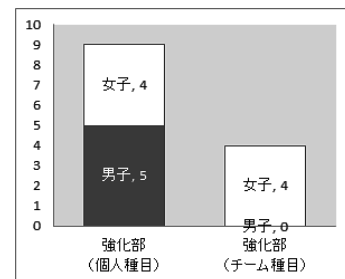


図1 来談した学生アスリート(n=13)の内訳

しかし個人種目の男女の主訴の違いを見ると(表2)、個人・チームを問わず男子アスリート特有の背景が垣間見える。彼らは競技パフォーマンスに直結した主訴で来談するか、あるいは心身の不調に至って来談するかという両極的な特徴が見受けられた。女子アスリートにはそのような傾向は示されず、比較的広範な主訴で来談がなされていた。主訴とはあくまでも専門的な他者(相談スタッフ)と新たな関係を構築する入口であり、そこを契機に自分の内的な課題への取り組みが始まる。いずれにせよ男子アスリートにとって来談の敷居は高く、競技パフォーマンスの問題が唯一その契機となりやすい可能性が示唆された。

【結論】今回の結果から、男性アスリートの早期来談を促すためには、パフォーマンスに焦点づけた来談の呼びかけ、周知方法をとることが有益だと考えられる。

表2 来談者の主訴分類

来談主訴	強化部(個人種目)				強化部(チーム種目)				計
	男子学生	女子学生	OB OG	保護者	男子学生	女子学生	OB OG	保護者	
1 競技活動の停滞・スランプ	1	1				1			3
2 試合での実力発揮の問題	3					1			4
3 競技場面での人間関係			1			2			3
4 競技継続の迷い・引退について		2				2			4
5 練習環境について	1		1						2
6 怪我や病気に関すること		1				1			2
7 勉強・学業との両立について		1							1
8 家族・家庭のこと		1				1			2
9 心身の不調	2			1		1		1	5
10 その他	1	1							2
計	8	7	2	1		9		1	28